

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

(別紙 3)

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心・ふれあい・ゆとりを理念に掲げておりこの三つを基本にサービスを提供している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にそって日々のサービスを提供できるよう、日常的に職員に話している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	なごみの丘のホーム便りを作成。配布している。又、近郊の利用者多く、訪問も多い。敷地も広い為、地元の老人会の方が園芸を手伝ってくれている。		
	2. 地域との支え合い			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者や家族は地元が多く気軽に面会に来られ、長時間一緒に過ごせる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事や地区以外の会には参加していない	○	今後機会を増やしていきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いをしていない	○	話し合いを設け実践に移していきたい
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務で伝えたり、会議等で話し合っている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なかなか会議の出席がままならず、定期的に会議を開催する事ができていない	○	再度施設長と話し合い定期的な運営会議の開催を検討する。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携がとれる機会がない	○	連携が取れるよう積極的に行動していきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今までに例が無い		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的にどのような行動・発言が虐待と言われているか会議で話し、注意に努めている		
	4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は勿論の事、毎月の個人負担金を現金で頂いている為その都度、質問や疑問を家族に聞いている。又質問や苦情等あればすぐに対応している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や園への質問・苦情等は母体の施設長・相談員と話し合い解決へ努めている。職員等の苦情もすぐに対応。職員に注意し家族に謝罪。会議や朝礼にて報告し同じ繰り返しが無い様話し合う		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問時やTELにて報告している。金銭管理については、請求書郵送時にその月の領収書と出納帳のコピーを郵送し支払い時にサイン頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで意見を述べてもらえるよう促している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は管理者に遠慮なく質問・疑問・提案を投げかけてくる為、その都度耳を傾け対応。会議でも説明・解答するがこのような機会は日に何度もある		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特別な状態の際には、その都度対応が出来るように勤務時間を一定の期間組み替える		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と施設長が話し合い、移動した場合の補強を検討し、又利用者にも状況を説明している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別問わず採用に制限は無い。又、シルバー人材センターから9人程派遣しており、利用者と年齢が近い為、頼みやすいと人気である。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職契約時説明。また契約書に織り込んでいる。 又ケアプラン等を外部に漏らさないよう、持って帰らないよう説明している		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年より人事考課を取り入れ実施している		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っていない	○	今後地域でのグループホーム職員の集会に参加させてもらえるよう、機会の確保を施設長と検討する
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は管理者に対して遠慮することなく、仕事での質問・不満をぶつけており、管理者も態度や言葉で拒否せず耳を傾けている。その為かプライベートの事もよく話され比較的仲が良く食事会も多く開催している。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課のなかで面接時に努力や実績を褒めるようにしている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に傾聴する姿勢であることに気をつけ、いつでも相談してもらえるように配慮している。入浴や病院受診など二人きりの時間をつくり相談しやすい環境をつくっている		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や入所時に聞き取りの時間としてじっくり要望などを尋ねている。きちんと傾聴しているという姿勢に注意している		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談について早めに対応し分かりやすく解答するよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は一時間程度家族に付き添ってもらい不安を和らげてもらう。あくまで個々の対応に重点をおき、集団に慣れるまで時間をおき徐々に馴染んで頂くようにしている		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクや生活のなかで利用者が職員に教えるという機会を作るというよりも、自然と生活の流れの中で指導していただいている		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者は職員に対し感情を自由に出し表現している。逆に職員が利用者からお世話されたり、注意、叱られることもあり、フレンドリーな関係が見られる。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	自宅にいた時は疎遠だった家族も入所を機会に会う回数が増えている。介護に対して積極的な家族も多い		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院は今まで利用していたところ持続している。又自宅近隣に行きたいといわれれば、一緒に外出したりする		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団が好きな方は集団を、一人が好きな方は無理に集団にさせず個々のニーズに合わせて対応。職員が誘導するよりも自然と利用者から輪の中へ誘っていく傾向にあり仲が良い		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一度退所され、又再入所された利用者もおられ、退所の回数にかかわらず、再入所可能。過去の家族の方もまた利用したいという声多く、現在も予約している。		
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを含め日々の生活から気をつけて対応している。利用者の心の本音に気づけるよう注意している		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の契約時に聞き取りを行うほか、面会時にゆっくりと時間をかけ聞き取りする		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタル測定から始め既往歴・申し送りを含めこまめにチェックしている。急変時はすぐに対応に努め記録に残す		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネがケアプラン作成時に家族・本人に意見を聞いている。別に会議等で議案として反映させている		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	十分な見直しを行うためケアプランに対しての苦情は無く、対応できない事でもなるべく出来るよう配慮する。又それらについてはお互いが納得できるまで話し合いを進め計画をたてる		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき毎日日誌記録している。気付いた事あればケアマネ中心にその都度報告あり、会議にて今後につなげられるよう、家族・職員で話し合っている		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	満足のいける対応を心がけ実施している		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	交流無い為支援してもらえない	○	今後連携に努める
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所との連携はとっており、必要であれば相談している		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの連携はない	○	施設長に相談する
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も特別な事が無い限り病院の変更はなく継続受診する。遠方の病院受診も可		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症に詳しい為相談をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師がいなくて管理者が中心となって日々の健康管理に努めている。又、緊急時以外もかかりつけの病院と普段より連携を取っている為相談しやすい。特養が母体の為特養の看護師とすぐ連絡・相談ができる		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、入院中の状態を病院や家族にこまめに聞いたり、お見舞いにて把握している。入院時は席が一ヶ月しかおけないも、退院日が決まっていればそのまま入所の状態をとれる		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のあり方やそれに伴い家族や本人が背負うリスク、準備物等入所時に説明したり今後重度化が予測される入所者の家族に今後の方針を話している		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	GHとして対応が出来ないと判断した場合家族の意向を踏まえ、併用する特養への入所を特養職員と相談したりGHでの対応方法を家族踏まえ協議している		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHでの生活状況や医療的処置の状況を伝えまた、ケース記録等のコピーを渡したりし対応している		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時々、職員の中で、利用者を尊重していない言葉掛けが見受けられる	○	毎月の会議の中で言葉掛けの徹底をはかる
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	方言がきついで、優しい口調での声掛けを心がけている。利用者が自分で決めるという事が少ない為、今後はそのような機会を増やしていきたい。	○	お茶会や買い物で「何を食べたいか」「何を買いたいか」を個人で選んでもらっているも、日常生活でもっと「自分で決める」という援助を考えていきたい
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は決まった流れは基本的にない。利用者によっては、午後からリハビリ・レクに分かれるも毎回メンバーが違う。掃除等利用者が積極的に行われる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院がある方はそこを利用して頂き送迎することもある。又、職員に理容師資格保持者がいる為、家族や利用者に要望をとり、必要であれば園でカットしている。今では美容院よりも職員のほうが良いと多数の利用者が利用している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事・手伝いが好きな男性利用者がおられ、その方中心で行う。他利用者も残存機能を生かすためにケアプランに上げ職員と行っている。食事も嫌いな物は無理に出さず、別メニューを用意している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食に晚酌される利用者もおられ、又祝い事など昼食にビールをだしている。タバコも酒も基本的には禁止ではない。おやつは毎日15時に提供。管理できる方は自室においてあり、困難な方は職員が預かる。自室に冷蔵庫がある利用者もおられる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人に合わせ時間毎の排泄誘導・介助にて入所当時と比べ紙おむつ 紙パンツ・紙パンツ 布パンツに変更の利用者多数。又紙パンツ代に負担が無い様、日中・夜間と種類を変えはいて頂いている。ふんどしを愛用している利用者もおられる。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、午前・午後と個別に行われ毎日入浴や週に3回の方もおられる。利用者の希望にて行うも体調や年齢、病院受診などで職員が決める事もある。羞恥心を配慮する為に、利用者や職員が同性であることにも注意している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日をゆっくりと過ごして頂ける様にしている。集団よりも一人で過ごす時間を大切に、昼食の後は自室や茶の間で昼寝をされる。レクやリハビリ以外は、好きなように過ごされている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の好きなことや得意な事はそのまま維持できるよう、普段より役割としてされている。職員が役割を決めたのではなく自然とその役割に付いた感じである。無理矢理でなく何がしたいかの意思を尊厳できるよう注意している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていると精神的に違う為持っていることに対して規則は無いも、1万円以上は自己責任という取り決めをしている。管理できない方は預かりであるが買い物や病院受診で利用者にお金を渡し、支払いしてもらうこともある。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望があれば出来るだけ要望に沿えるよう努力している。又家族の了解得て一人でタクシーや電動シルバカーにて外出される利用者もおられる。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の要望を聞き、紅葉見学や神幸祭に出向いている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の取り付けをしていない為、利用者が直接かけることはないが、要望があればすぐに対応している。気軽に電話したいと言われる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ホールや居室で一緒にお茶を飲んで頂いたり又、必要に応じて個室を用意している		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束・虐待の意味を理解しており、日々の就業に取り組んでいる。このことに対しての研修や会議は取り組んでいないが、話題に出ると自然と熱心に話し合うことがある		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく日中は開錠に努めている為利用者が自由に外に行ききできる。夜間は不審者や事故防止の為施錠。家事など緊急時に備え施錠せずセンサーを設置しているドアも4箇所あり。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に徘徊の激しい方等はケアプランに組み込み所在確認を行っている		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物や洗剤は床しき収納へ。洋裁が趣味な方などは鉄の所持を許可している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	災害における緊急対応の研修等は行ったが定期的には行っていない	○	介護技術、災害等、定期的な研修会の開催を検討する
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し行ったが定期的な開催は行っていない	○	年間行事に取り組み実施する
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	働きかけていない	○	民生委員や地区の消防団に働きかける
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者が人間としての尊厳と自分らしくいきるを尊重し、それによって伴うリスクを分かりやすく説明している		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定時に利用者に伺ったり、少しでも特変あればこまめに対応。その都度申し送りも徹底している。病状が悪化すればすぐに病院受診し事故や早期発見を心がけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は申し送り帳に記載し各自、目を通し毎朝、朝礼にて報告。個人のケース記録に薬箋を閉じその都度確認できる。Drや薬剤師にTELし詳しく聞く事もある		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らないよう、多量の水分の促し、入浴時の腹部マッサージ、手作りの野菜ジュース、軽運動、ウオシュレットでの肛門刺激などで排便コントロール。排便困難時は下剤・浣腸挿肛する。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施。介助を要する利用者はずきつきりで介助、声掛け。義歯は週に一度ボリデントにて洗浄。毎週月曜日に歯科の往診あり。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に治療食は用意しない。主食に関しては希望があれば量を調整。毎食食事チェック表に記入。病状に応じ刻みや粥に変更。又ゆっくり食べて戴く様常に声掛けしている		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者を自室に隔離し常に職員が見守れるよう職員1名が付ききり介助を行なう。又介助用の職員をつけるため、勤務時間の変更、交代、など話し合い実施している		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	その日に残った食材は処分し、また定期的に調理器具の消毒を行っている		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花や観葉植物を多く取り入れ、壁には絵を飾っており又、木造のため木のぬくもりが感じられる。面会者には落ち着くと評判である		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルに季節の花を飾り、玄関・壁には季節感をだした手作りの作品をならべており、面会者には好評である		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。居室でくつろぐ方や掘り炬燵の畳で昼寝や談話されたり、テラスでタバコを吸われたり自由に過ごされている		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けはベッドとタンスのみで後は自宅にあるものを持ち込んで頂く。部屋の模様替えは家族や本人にまかせる・ソファや鏡台、仏壇など様々の家具を設置している。持ち込みに制限はない。ベッドを外し直接布団を敷いている部屋もある		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や空調はこまめに行っている。また、廊下や休み時間中のホール内の電気は利用者が率先して入・切してくれる為助かる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなど移動箇所には必ず手摺を設置。職員の誘導もあるがなるべく自力での移動を目的にしている為見守りも強化している。箇所箇所にプレートを設置。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前には各自表札があり、各利用スペースにも浴室・便所もしくはトイレ・と表札がある。誘導介助ではなく、自立して		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い敷地の為自由に散歩に出かけられ、又園芸に力を入れている為、水やりや手入れも利用者が積極的に自由ににされている。ベランダで洗濯物を干したり、テラスでタバコやお茶など飲まれる		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の個別化を重点に住みやすい安心したサービスを提供しています。また、利用者、職員同士がとてもフレンドリーなのが なごみの丘ではないかと思えます。